

## あちこちのお店で、 さりげなく見守る。

市内には、地域に根差してお客さんの様子をさりげなく見守っているお店がたくさんあります。今回は、その中の5店に、日頃の見守りについてお話を伺いました。

### さりげない見守りが、まるで「まちの保健室」

——西川商店

魚や野菜、惣菜やお弁当まで、なんでもそろそろ西川商店。50年程続くこの店は、長い間赤目地域の食を支えてきました。お客さんのほとんどは近所の人で、顔を見れば、だいたいこの誰かが分かります。買い物を終えても、店で一時間近く話をしていく人もいます。「雑談をして、すっきりして帰ってくればはるんかもね」と西川洋子さん。毎日来ていた人の姿が見えなくなると近所の人に様子を聞いたり、介護の相談を受けてケアマネジャーにつないだ



西川 洋子 さん 博 さん

り。また、毎日同じ物を買っていく認知症の人がいれば、必要以上の購入を止めるために「もうこの商品はないよ」と伝えたり、購入日時を控えておいたり。「見守りなんてしてないよ」と言いながらも、まるで、暮らしの悩みや心配事を気軽に相談できる「まちの保健室」のようなお店です。「元氣なうちはずっと続けたい」と話す洋子さん。日々のさりげない見守りとサポートが、たくさんのお客さんを支えています。



### お客さんの日常の中に、いつもあるお店でいたい

——パン屋「ごまめ」

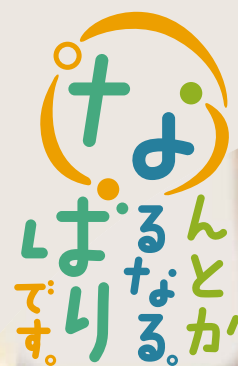


8年前にオープンした「ごまめ」は、夫婦で営む小さなパン屋さん。対面でパンを受け取るスタイルなので、お客さんとの会話が自然と生まれます。訪れるお客さんで特に多いのは、高齢者や子育て中のお母さん世代だそう。「接客を主に担当する妻とおしゃべりを楽しみに来てくれるお客さんもいます」と、店主の山崎将人さん。顔なじみの常連さんがしばらく来ないと心配になるそう、高麗の常連さんがしばらく姿を見せなかった



店主 山崎 将人 さん

時、たまたま来店した息子さんに「お父さん、どうしてる？」と聞いたことがきっかけで、後日、常連さん本人が顔を見せに来てくれたこともあり「したね」と話します。「パンは日々の食事で食べる物なので、パン屋への買い物は日常の一部。皆さんの日常にいつもあるお店でいたいですね」と優しく笑う山崎さん。日々の営業の中でお客さんの様子に気づくことも、何気ない見守りの一つです。



お店だから気づけるコト



みんなの力で「なにかなるまち」

「あの人、最近来ていない……」  
「常連さん、今日はなんだか元氣がなさそう」

お店で交わす何気ない会話や、ささいな気づきが、実は暮らしを支える「見守り」です。ちょっと気にかける人があちこちに  
いるまち。これが、「なにかなる  
なる。なばりです。」の「ロ」が表  
す名張の姿でもあります。

一人暮らしの高齢者が増える中で、「いつもと違う」に気づく見守りは、これまで以上に大切になっています。買い物や散歩の途中に、ちょっと顔を合わせて「元氣？」と声をかけ合える。そんなつながりがあると、抱えている不安や心配事、心身の不調などにも、いち早く気づくことができます。

市ではこれまでも、地域住民やまちの保健室、民生委員・児童委員などによる見守りや声かけの活動を進めてきました。さらに新聞配達や宅配など、日ごろから家庭を訪問する事業者にも協力いただき、異変に気づいたときには地域包括支援センターへつないでいただく仕組みも整えています。

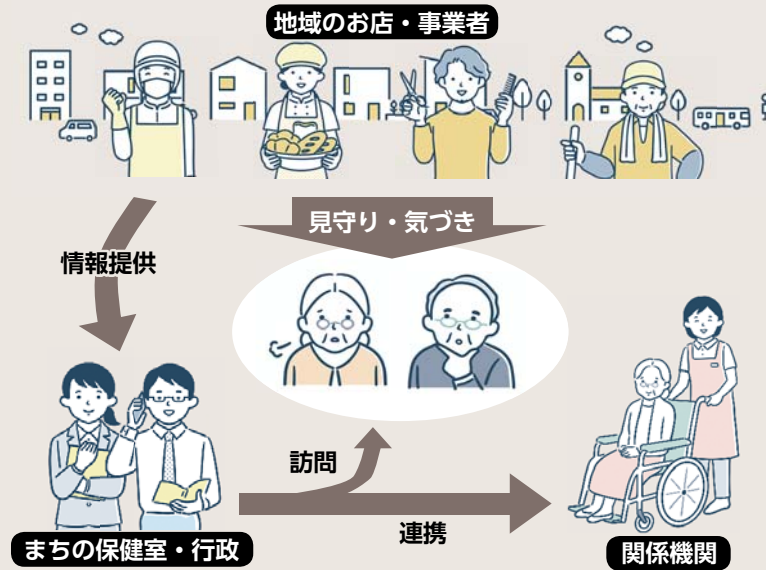
そして今、新たな「見守りの目」として期待されるのが、地域に根差すお店の皆さんです。



## まちのあちこちに、 「見守りの目」を増やそう。

地域の商店や企業は、買い物やサービスを通して、毎日の暮らしを支える“まちの基盤”です。お客さんの身体の変化や、いつもと違う様子にいち早く気づける場所でもあります。

市では、お店の皆さんからの「気になる」情報を関係機関につなぎ、地域全体で安全・安心を支える「地域の見守り活動」の体制づくりを整えていくため、「地域の見守り活動推進事業」を進めていきます。



「何をしたらいいかわからない」という人はぜひご参加を！

## 地域の見守り活動推進事業 キックオフセミナー

日時 1月29日(木) 10:00～11:30

場所 防災センター

内容 事業の概要説明、地域の見守り活動の事例紹介、可能性指向を学ぶワークショップ

講師 慶應義塾大学大学院 堀田 聡子 教授

対象 地域の見守り活動推進事業の登録者など

定員 50人

申込 1月22日(木)までに、  
申込フォームから申込



☎ 地域包括支援センター ☎ 63・7833

## あなたのお店も、 「見守りの目」になってほしい。

住民の生活基盤である商店や企業の皆さんにお願いです。お客さんの身体の変化や認知症によるひとり歩き、虐待を疑うような「いつもと違う」様子に気づいた時に、営業に支障のない範囲で、地域包括支援センターへ情報を提供いただけませんか？

ご協力いただける場合は、市HPにある登録フォームから申請をお願いします。登録いただいた協力店は、市HPでご紹介します。

市HP



☎ 地域包括支援センター ☎ 63・7833

## 認知症の人でも、安心して買い物に来られるお店に ——マックスバリュ 名張店

「従業員さんのほとんどが認知症サポーター。店内で同じ場所を行ったり来たりする人に『何かお探ですか？』と優しく声をかけたり、未精算の商品を店外へ持ち出そうとする人には『お買い上げされますか？』と声をかけたりと、配慮が必要な人にもしっかりと寄り添った対応を心がけています」と話すのは、店長の伊藤弦さん。「迷惑行為として入店を制限することでもできますが、そうではなく、認知症の人でも安心して買い物できる店にしたいと思っています」。多くの人が利用するお店だからこそ、そのさりげない見守りが、安心につながっています。



店長 伊藤 弦 さん

## 気楽に集まって話しする 「サロン」のようなお店

——市内のある美容室



住宅街のとある美容室は、髪を切るだけの場所ではなく、地域の高齢者が気軽に集まる「サロン」のような場所です。営業中に近所の高齢者がお弁当を持って集まってきたり、店内でおしゃべりしながら食事をするのはいつもの光景。常連さんや近所の人たちが、月に一回、近くの喫茶店で食事をすることも恒例です。「近所の皆さんが集まって、楽しくおしゃべりしてくれているのが嬉しい」と店主さんは笑顔で話します。

通りに面したガラス張りの店からは、外の様子もよく見えます。パジャマ姿で歩いている人や、一人で歩いている認知症が疑われる高齢者に声をかけ、家族や警察に連絡したこともあるのだそう。「みんなのおかげで、今の自分がある」という感謝の気持ちから続けてきたというこの美容室。店主さんは、「皆さんが気楽に集まれる場として、ずっと続けていきたいな」と話してくれました。

## 毎日の「お届けです」が、 安否を確かめる合図

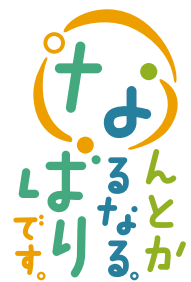
——まごころ弁当 名張店



オーナー 永井さん

高齢者向けの配食サービスとして、市内の高齢者世帯を中心に、昼と夜あわせて一日百食ほどのお弁当を届けている、まごころ弁当名張店。手渡しで配達する利用者が多く、「こんにちは、今日は寒いですね」といった短い会話を都度交わします。時には「ポストから新聞を取って」といったちょっとした頼まれごとに対応することも。

「気になるのは、配達したお弁当が手つかずのまま残っていたり、いつも出てきてくれる人が玄関に現れなかったりするとき。まず本人に電話し、それでも連絡がつかない時は、家族やケアマネジャーなど、事前に聞いている緊急連絡先に連絡します」と話すのは、店長の松村拓郎さん。郵便物がたまっていることを不審に思いまちの保健室に連絡したところ、亡くなっていたことが判明した経験もあるといいます。毎日のお弁当の配達、地域の見守りの一端を担っています。



## 市民ワークショップで ブランドロゴの活用方法を検討中！

2023年に市民参加のもとで作成したブランドロゴ「なんとかなるなる。なばりです。」。ロゴに込められた「名張は困ったことがあっても、お互いの助け合いで『なんとかなる』まちなんだ」という想いを広げるために、市民ワークショップで、4つのグループに分かれて活用方法を検討しています。

ポスター

案内所

ゲーム

動画



作成中

市民から集めた「なんとかなるなる」エピソードをもとに四コマ漫画ポスターを作成中



「なんとかなるなるの木(仮称)」や「なんとかなるなる案内所(仮称)」を製作し、市役所ロビーに設置



名張でなんとかなったエピソードを元にカードゲームを試作。イベントで試しながら正規版を検討中



名張の新たなヒーロー「なんとかなるなるマン」のショートドラマを制作し、市のSNSで公開